

米中堅銀行ファースト・リパブリック・バンクの経営懸念高まる

- 米ファースト・リパブリック・バンク(FRC)の経営不安高まり、株価は年初来で97%下落。
- 同社は米連邦預金保険公社(FDIC)の監督下に移行すると
の報道も、市場の動揺は広がらないと見込まれる。

■ FRCの経営懸念高まり、株価は大幅下落

4月28日、報道各社はファースト・リパブリック・バンク(FRC)が30日にも経営不安からFDICの監督下に移行する見通しであると報道しました。日本時間5月1日午前9時時点で続報はないものの、破綻に向けた処理が水面下で進行しているとみられます。

FRCの資産規模は2022年末時点で約2,100億米ドルと全米14位の中堅銀行であり、銀行破綻となれば2008年9月の米貯蓄金融機関ワシントン・ミュチュアルに次ぐ過去2番目の大きさとなる見込みです。3月のシリコンバレー銀行の経営破綻から金融機関への懸念が続くなか、FRCの2023年1-3月期決算では、預金残高が2022年12月1,764億米ドルから3月には約41%減の1,045億米ドルまで減少したと判明、同社の株価は連日大幅下落し、既に28日時点で年初来比で97%下落となっています。

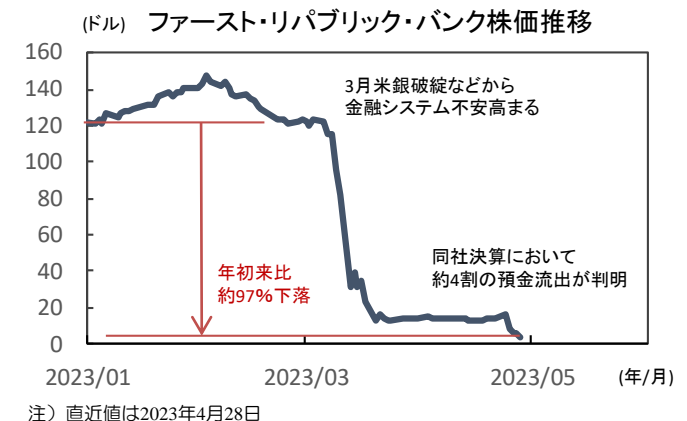
■ 大手行の支援実らず、預金流出が継続

FRCは3月に経営破綻したシリコンバレー銀行と同じく、カリフォルニアを拠点とする有力中堅銀行です。同行は総預金に対してローン貸付などの割合が高めであり、また預金保護の対象になりにくい大口顧客の割合が多いことから、昨今の金融不安初期から預金流出懸念が高く、3月には大手銀行11行が合同で計300億米ドルを預金すると発表、実質的な信用補完を行うなど、経営継続の努力が続けられていたものの、預金流出に歯止めがきかず、経営の持続性が損なわれた格好となりました。

■ 米銀全体では預金流出が止まりつつある

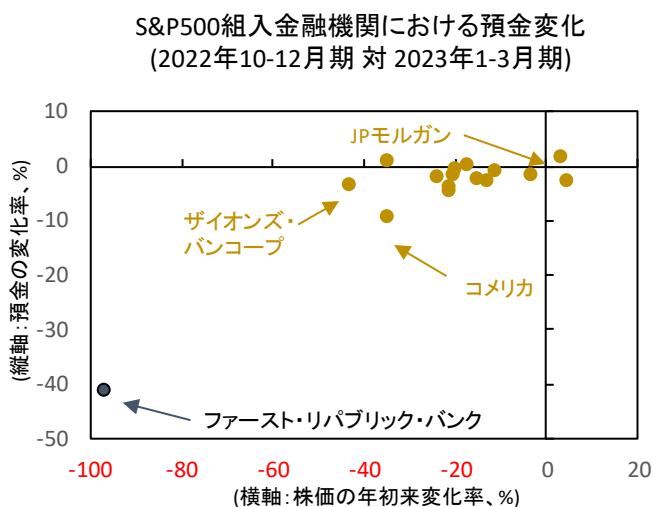
FRCの経営懸念が引き金ではないものの、一連の米銀破綻や累積的な利上げの影響を受けて米金融機関の各種融資判断は厳格化されており、今後、企業の資金調達環境はさらに厳しくなる見込みです。ただし、資金調達環境の悪化は金融引き締め局面としては循環的な事象であり、年後半にかけ緩やかな景気鈍化が生じることはすでに市場のコンセンサスとなっています。なお、懸念の大きい中小銀行からの預金流出は悪化が止まりつつあることから、連鎖的な金融機関の破綻は考えにくく、市場全体への影響は限定的に留まると見込まれます。(清水)

【図1】 預金流出が響き、株価は大幅下落



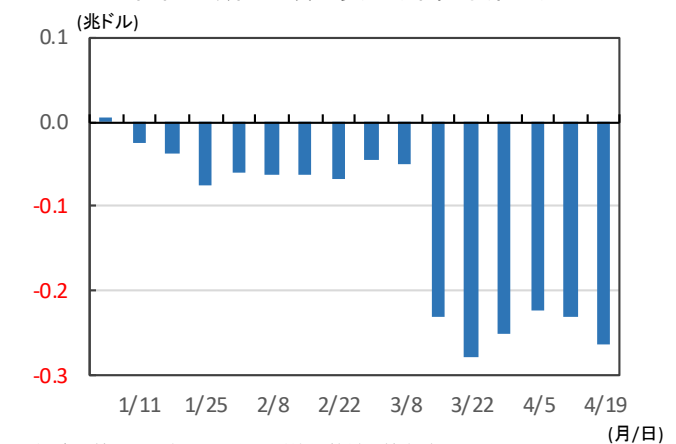
出所) Bloombergより当社経済調査室作成

【図2】 市場の懸念は預金の流出動向



注) 比較した銀行はS&P500のGICS基準による銀行業。

出所) Bloombergより当社経済調査室作成

【図3】 米中小銀行全体では預金流出の悪化が止まる
米中小銀行の預金変化(年初来累計)

出所) FRBより当社経済調査室作成

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 本資料は、投資環境等に関する情報提供のために三菱UFJ国際投信が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。販売会社が投資勧誘に使用することを想定して作成したものではありません。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 各ページのグラフ・データ等は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の三菱UFJ国際投信戦略運用部経済調査室の見解です。また、三菱UFJ国際投信が設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。



三菱UFJ国際投信

三菱UFJ国際投信株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会